

大規模災害時の食糧支援を議論

北区でシンポ

地震や津波など大規模災害時の被災者への食糧支援を考えるシンポジウム「南海トラフ地震津波対応準備と食糧支援」が17日、北区奉還町2の岡山国際交流センターで開かれた。

国際医療NGO「AMDA」主催。AMDAは県内の農家などの協力を得て、災害直後の炊き出しなどに充てる米の供給体制を整備している。南海トラフ地震発生時に津波などによる被害が予想され



る徳島県や高知県などの沿岸地域を支援する仕組み作りについて議論した。

AMDAグループの菅波茂代表が、1995年の阪神淡路大震災を例に「災害現場にた

どり着くのが大変」と、事前に被災地の情報を集めたり、支給物資の備蓄の重要性を強調。参加者の農家から「一定量を倉庫で保管することで、緊急時に流通させることが

災害時の食糧支援を考えるシンポジウムの参加者ら＝北区奉還町2の岡山国際交流センターで